



見守り活動の留意点

基本的な見守り活動

- 子供が1人で歩く「1人区間」などの危険箇所への配置
「見守りの空白地帯」の把握、情報共有
- 見通しの悪い場所など危険な箇所はないか、防犯の観点で確認
改善が必要な箇所の把握、情報共有
- 子供が助けを求めてきた際の一時的保護、警察への通報
緊急の場合は110番通報
- 1人で遊んでいる子供や遅くまで遊んでいる子供へのひと声
早めの帰宅を促す声掛け
- 県警メールマガジンの前兆事案情報を活用した見守りの配置
声掛け事案などの発生場所周辺の警戒活動
- 「ながら見守り」の推進
個人や事業者による日常活動に支障のない範囲での見守り活動

有事に備えた見守り活動

- **複数人の配置**
有事の際に備え、できるだけ複数人で配置
 - **あらかじめ役割分担しておく**
子供の誘導役、周辺の警戒役、有事の連絡役など
 - **単独で見守りを行う場合**
子供のみを意識を取られることなく、周囲に不審者がいないかなども気を配る。
 - **配置箇所の周囲の確認**
あらかじめ、有事の際に子供たちがすぐに逃げ込める場所を何か所か確認しておく。
配置の際、周囲に不審者や不審な車はないか、確認する。
 - **登下校時に子供が集まる場所も見守りの対象とする**
スクールバスの停留所など
 - **有事の際の対応**
車道に飛び出さないよう誘導(逃げる方向など子供に具体的に指示)
見守る側もけがをしないよう留意
- ◆ それぞれの配置箇所でシュミレーションしておきましょう ◆

